

薬学概論 I	1	必修	前期	1.5	本科目は薬学導入科目である。学習法や学ぶ姿勢に慣れながら、大学における学びの特徴を理解する。インターネットから得られる情報をはじめとする各種学習資源の活用法や意義を、両立型と理解しながら理解する。教授、主眼生、卒業生など本学の教育課程をよく知る人の体験談等を聴くことにより、積極的に大学での学びに取り組むことが自らの可能性を広げることとなる。また、薬士になるためのことを意識してつくられているものであるが、神として事をなすという信念があることを学び、薬剤師は使う人に害を及ぼさないように薬を適切に扱い、人々に薬を適切に使う必要性を伝える使命があることを理解する。薬剤師の社会的使命や高学に携わる者として適切な倫理観を持つことの重要性を理解する。以上の学びを通して、病める人の心を救うことができるようになることが薬師としての感性を養う。	◎	○	○	○	○	○	○									
社会薬学 I	1	必修	前期	1	社会人としてのマナーを身につけ、人それぞれ思いやりの心、相手の立場にたて物事を考える心（情理めい）を身につけた心豊かな薬師人となるために、コミュニケーションの基本や生活の糧となる理解し、自らの考えを述べられる能力を修得する。	◎	○	○	○	○	○	○									
有機化学 I	1	必修	前期	1.5	生物、薬理、薬生 さらには医療薬学を化学構造をもとに理解するために、その基礎となる分子の化学構造と立体化学に関する基本的知識を修得する。これらの知識は生薬化学（1年前期）、有機化学 2（1年後期）、有機化学 3（2年前期）、有機化学 4（2年後期）とは H.O.N.S の有機化学に関する基礎的知識に関する点で共通しており、医薬品化学 1（3年前期）や天然物化学（3年後期）とは生体および天然物を構成する有機物の化学構造の理解という点で関連している。	○					◎										
機能形態学 I	1	必修	前期	1.5	人体の各臓器や器官、組織の構造やその機能について理解することを目的とする。薬学部における機能形態学は、医薬品の作用機序を理解するうえで基礎となる学問です。薬理学、病態・薬物治療学、薬物動態学などの土台となる学問です。							◎									
漢方入門	1	必修	前期	1	現代医療において漢方薬の重要性は益々高まっており、漢方薬について十分な知識を修得することも薬剤師として必要である。本専科では、学生が現代医療における漢方薬の重要性を理解し、漢方薬の歴史や基本理論について学び、学生が今後さらに漢方を学ぶための必要とされる知識を修得する。														◎		
介護学概論	1	必修	前期	1	薬剤師は特殊業務や薬問窓があるいは在宅医療などで多くの患者に接しなければならない。これらの患者を介護する基本的知識を学ぶことは、患者から信頼を得てコミュニケーションを構築すると共に、看護・医療スタッフとの連携を深めるのに役立つ。本専科では、介護の目的と役割、介護を受ける患者の身体的、精神的な現状について理解する。さらに、介護の業務過程や介護の実践について概説する。これらの基礎知識を、薬物治療の適正化を通して、患者の安全確保の QOL（生活の質）向上に貢献できるようにする。																◎
スポーツ薬学	1	必修	前期	1	近年、特に先進国では個人がスポーツや運動管理を持つことが健康維持のために必要となっている。本講義「スポーツ薬学」では、身体活動に関する基礎的解剖学、生理学の基礎的理論と共に、人体活動時の機能的、機能的な変化について学ぶ。身体活動に関する基礎的理論と併せて、その仕組みを習得する。薬師人として、人間の健康状態を正しく理解し、患者に的確な指導・提案を行えるよう、基礎知識を習得し、各臓器の存在意義についても理解できるようにする。さらには、本講義を通して生命とは何か、いのかの大切さを考える力を身に付ける。															◎	

各履修科目の、各DP小項目への貢献度の総和を100としたとき

- ◎ 強く関わる(40以上)
- 関わる(40未満)